集中豪雨被害

（平成7年7月）

7月11日から7月21日まで断続的に降り続いた局地的豪雨で黒部川上流部で大規模な地滑りが発生。大量の土砂や倒木が流れ込み、黒部峡谷鉄道が寸断されるなど数百億円にものぼる被害をもたらしましたが、幸いなことに被害は黒部川上流域にとどまり、宇奈月町や入善町、黒部市には及びませんでした。

黒部川最大の土砂災害発生

（昭和44年8月）

台風の通過と、その後、南下した[illegible]による500ミリメートルを超す集中豪雨による[illegible]が流出し、黒部川下流で50年ぶりという大災害が発生しました。被害は黒部川扇状地全域にわたり、堤防の決壊、橋の流失、人家の流失や床上床下浸水から[illegible]発電所にまでおよび、被害総額は約10億円を超えました。

知っていますか？　黒部川は崩壊　面積比率トップレベルの暴れ川

黒部川流域の山々は、断層活動にともなって
急激に隆起して形成されたもので、地質的に崩壊しやすく、
黒部川上流域の山地の崩壊面積比率はおよそ5%にもおよびます。
これは我が国トップレベルの比率です。
流域全体で7,000カ所の崩壊地が位置し、その代表的なものは、
祖母谷、小黒部谷、不帰谷の3カ所で
「黒部3大崩れ」とも呼ばれています。

祖母谷右岸の崩壊

（昭和54年5月）

風化による岩石が崖くずれを誘発し、祖母谷右岸で山腹が崩壊しました。現場は黒部川本流と祖母谷川の合流地点にかかる奥鐘橋から約100メートルほど上流。この時に崩れ落ちた土砂が一時祖母谷川をせきとめ、上流200メートルにわたって湖を作ってしまったほどです。

祖母谷硫黄沢の地滑り

（昭和55年5月）

祖母谷上流の硫黄沢で集中豪雨による大規模な地滑り性崩壊が発生。これが土石流となって流出しました。崩壊土砂量は約160万立方メートルと大規模で、下流域の水田や富山湾内にも流れ込み、農業だけでなく漁業にも大きな被害をもたらしました。

その他の災害

昭和7年
7月：不帰谷に大土石流が発生し、30万m³流出する。

昭和9年
7月：黒部川、大正3年以来の大洪水で、若栗、大布施、新屋、下立堤は破堤する。堤防決壊は15,009m、道路の決壊15,709m。

昭和12年
1月：森石谷で土石流が発生する。堤防の決壊540m、道路の決壊460m、水田の被害100a。
8月：小黒部谷で20万m³の土石流が発生、森石谷が崩壊する。

昭和19年
7月：黒部川洪水。福島、上萩生堤が破堤する。
7月：不帰谷で大土石流が発生し、本川合流点付近にあった錦繍温泉は埋没、流出し、復旧不可能となる。

昭和20年
7月：不帰谷で10万m³、小黒部谷で20万m³の土石流が発生する。堤防の決壊2,500m、道路の決壊80m、水田の被害13,165a。

昭和22年
6月：黒部川洪水。上萩生堤が破堤する。
6月：不帰谷20万m³、小黒部谷20万m³の土石流が発生する。堤防の決壊1,250m、道路の決壊70m、水田の被害11,400a。

昭和27年
7月：黒部川大洪水。若栗、浦山、上浦山、下立堤が破堤する。

昭和28年
8月：不帰谷で15万m³、祖母谷で8万m³の土石流出が起こる。

ゼンマイ谷地滑り

（昭和51年5月）

黒薙川上流のゼンマイ谷で地滑り性の崖くずれが発生、4万立方メートルもの土砂が流れ込みました。このため黒部川が2週間もの間、濁流となりました。

不帰谷の山崩れ

（昭和56年8月）

不帰谷で山崩れが発生し、6万立方メートルの土石流が黒部川を埋めました。